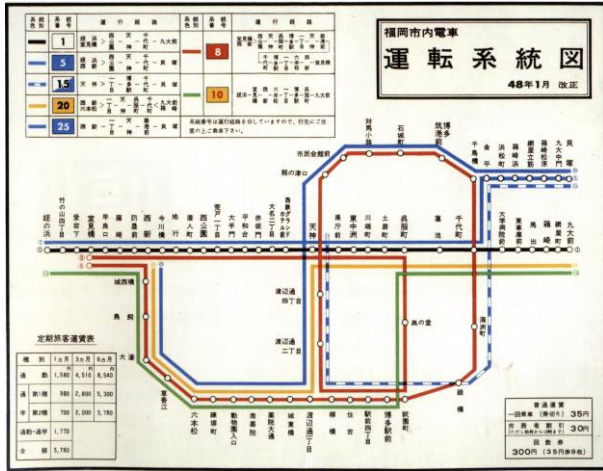


思いでのチンチン電車～貝塚線



昭和48年の路線図 大人運賃35円

箱崎の街を走るチンチン電車には二つの路線があった。一つは九大前から天神を経由して姪の浜方面へと向かう「貫線」、もう一つは貫線の北300mを走る「貝塚線」である。貝塚線には千鳥橋を経由して今川橋へと至る25系統、千代町を経由して姪の浜へと至る5系統、そして博多駅を経由して天神へと至る15系統など三つの系統があった。

1954（昭和29）年、宮地岳線の西鉄博多駅から西鉄多々良（後の競輪場前→貝塚）駅までの路線を改築・複線化し、貝塚線として福岡市内線に編入、同時に西鉄博多駅は新博多駅と改称された（後の千鳥橋電停）。1979（昭和54）年に廃線されるまで、貝塚線は九大生の夢と希望を乗せて走っていた。

貝塚

貝塚線の終点、貝塚電停。ここで西鉄宮地岳線に乗り換えることができた。1986（昭和61）年に福岡市営地下鉄が貝塚駅まで開業し、西鉄宮地岳線と連結した。文科系のキャンパスにほど近く、文系の学生は現在も貝塚駅を用いる。



貝塚駅遠景 (1975年)

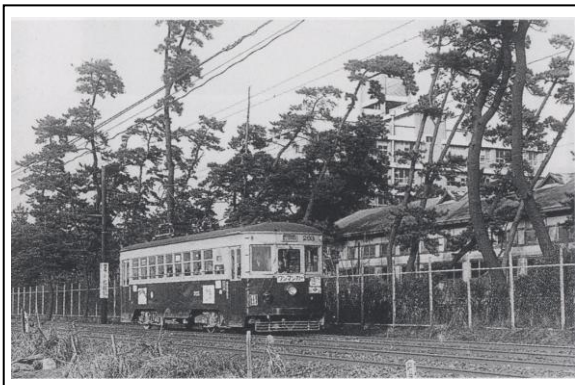


現在の貝塚駅 (2008年)

両写真ともに奥が香椎方面。写真右手に三郡山地の一部が見え隠れする。

九大中門

文科系・理科系キャンパスの間に挟まれるように設けられた九大中門電停。写真は千代の松原の残る九大キャンパス脇を行く電車、背後の松が立派である。現在、松並木はなくなり、代わりに市営地下鉄の地上への出口付近となる。



貝塚駅から九大中門へと向かう (1970年)



現在の風景 (2008年)

箱崎松原

箱崎松原電停は、九大の松原門（電車が走っていた当時はなかった）のすぐ西側にあった。写真左手、線路脇の「陣内医院」と、右手のコンクリート塀は現在も残る。線路の跡地は駐車場となった。



箱崎松原電停から貝塚方面を望む (1975年)



現在の風景 (2008年)